

2021. 12. 9 (木)

音楽趣味で外国とつながることと、 その後の 20 年間で感じた日本の変化

高 原 基 彰

韓国とのつながり（序）

チャペルではあまり授業でしゃべらないようなことを言おうと思っていて、まず私事なのですけども、私はコロナが始まる直前ぐらいに結婚しまして、妻は韓国人です。

私は 2017 年度に研究休暇を頂いて、韓国に滞在したんですが、その時に会いました。そこからさらに 10 年前ぐらい、2007～2008 年の約 2 年間にも私は韓国に住んでいたことがあって、だから韓国に住むのは 10 年ぶり 2 回目という感じでした。

もっとさかのぼると、私は一応東アジア政治の研究をしていることになっているのですが、初めて韓国という国と関わりを持ったのは 1998 年、私が大学を卒業した年でした。卒業旅行でたまたま韓国に行ったんです。

その頃、日本と韓国の間には、今のような交流というか情報が全然ありませんでした。今だったら例えば明洞というところがある、江南というところがあるなど、何も韓国と関わりがない方も名前ぐらいはご存じだと思うのですが、その頃はそれすらも全然なくて、ミョンドンって何だろう、言葉の響きが変だな、というような感じが当たり前だった頃です。私より先輩の方々は、もっとお互

いを知らない時代に韓国と関わりを持たれていたのだと思いますけれども、私の時もまだそのような感じでした。

バンド音楽とアメリカ旅行

私の個人的な経験を、もっとさかのぼってもいいですか。私は 1976 年生まれで、大学入学が 1994 年でした。私が 10 代の頃には、激しめのバンドの音楽がはやっていました。私も 15～16 ぐらいから、よくライブハウスや、そういうレコード・CD ショップに行っていました。

例えば、クリスマスを前にお話することではないのですが（笑）、デスメタルってあるでしょう。何となく分かりますかね。これはこういう音楽に詳しくない人の言い方で、本当はグライندコアって言うんですが、まあそれはいいです。

1980 年代後半にあれを始めたイギリスのバンドがいて、もちろん非常に有名なんですけども、音楽雑誌とかにインタビューが載っていたんですね。彼らはインタビューで、なぜこのような音楽をやるようになったのですかと聞かれた時に、実は S.O.B という日本のバンドのアルバムを聴いて衝撃を受けて、そこからあのスタイルにしたと、よく言

ってたんです。アルファベットで S.O.B.、大阪のバンドです。

S.O.B が、同じく 80 年代後半に、当時としては非常に変わったレコードを出していて、すごくスピードが速い曲をやってたんですね、そのイギリスのバンドの人は、たまたま中古のレコード屋か何かで、イギリスに流れついたそのレコードを買ったんでしょう。聴いてみたら、これは何だと。このようなものは聞いたことがないと思って、これよりさらに速くしたらもっとすごくなるんじゃないかと、そういう感じでデスメタルという変な音楽ができたんだそうです。だから、S.O.B は、そういう音楽が好きな人だったら、世界的にとっても有名な、みんなが知っているバンドだったのです。

そんな高校時代から大学に入って、1994 年の大学 1 年の夏休みに、アメリカに 1 カ月半ぐらい一人旅に行ったんです。サンディエゴからシアトルにかけて、西海岸の街をめぐってって、もちろん街々でライブハウスを探して行くわけです。本場のライブってどんなだろうってですね。

あちらではそういう所で他人同士も会話するのが当たり前ですので、現地の人に、君はどこから来たのと聞かれて、日本ですと言うと、日本というと S.O.B っているよねというような話になって、うん何回もライブ見ましたよと、私は関東の人間なのですけれども、S.O.B は私の若い頃まだ全然現役で、大阪から東京にもツアーに来ていたので、そう言う、相手が「えっ」と言ったら、S.O.B 見たことあるの？って、友達も呼んできて、彼 S.O.B 見たことあるらしいよ、本当？マジで？みたいな（笑）。

インターネットが本格的に普及する直前の

頃、実質まだネットのない時代ですので、日本の我々も、アメリカやイギリスのバンドって雑誌などの限られた情報でしか触れられなかったんですね。動画なんか、専門のビデオショップに行ったら、結構高いお金を払って VHS テープを買ったりしないと見られませんでした。今考えると逆に、アメリカにいる彼らが、日本のことを知るのはいくらも難しかったんでしょう。日本語読める人も少ないし、レコードや CD も手に入りにくかったでしょうし、S.O.B は名前を知ってるけど、もはや伝説の中のバンドみみたいな、そんな感じだったんだと思います。

他にもそういう感じで、好きな人の中では有名になっていた日本のバンドっていくつかあって、あれは見た？とか、ああ、それは東京のバンドだから何回も見ていると言うと、「わあすごい」って、あっちでもっと話そうぜみたいな（笑）。おれどこどこでショップやってるから明日来いよとか、そのような思い出がたくさんあります。

韓国初訪問とバンド音楽

大学を卒業した 1998 年に、初めて韓国に行きました。卒業旅行で、10 日間くらいだったと思います。友人と二人だったんですが、友人は 2 泊くらいで帰って、あとは私一人でした。

90 年代後半というのは、まさに韓国にもライブハウス文化のようなものができてきた頃なんです。この頃には一応インターネットが普及していて、日本人がソウルのライブハウスを紹介しているホームページが 1 個だけあって、行く前から知っていました。だから私はちょっと長くてみようかなと思った

のもあります。

ソウルの弘大（ホンデ）という所で、ライブハウスに行きました。そうすると、あれ日本人？なんて言われて、そうですよと言うと、外国人が来るのは珍しいんだよねと。こっちの人はどんなバンド好きなの？って聞くと、アメリカとかイギリスの、こんなのとかあんなのとかって。へえよく知っているね、とか言い合って。当時はお互い、つたない英語でですね。同じものが好きなので、あっという間にみんなと話が合いました。

実は韓国では、1998年まで日本大衆文化禁止というのがありまして、日本文化というのは、例えば公にテレビで流したりしてはいけなかったのです。今考えると、私が行ったのは、解禁から1年たたない頃ぐらいですね。とはいえ解禁前も、日本文化は海賊版としていろいろと韓国に入っていました。たとえば90年代初めくらい、X JAPANが爆発的に人気だったんですね。その世代では、X JAPANをきっかけに日本語の勉強を始めたとか、日本に興味をもって留学したとかいう人が、ものすごくたくさんいます。でも全部海賊版で、そういうお店を頑張って探してコピーCDやVHSを買っていたんです。

1998年に私が行った時も、やはりみんな日本のバンドに興味はあるけれども、全然知らないわけです。日本文化自体が解禁されたばかりなのに、私たちの好きな音楽なんてただでさえマニアックですから。例えばさっきのS.O.Bとか名前は知ってても、韓国ではまったく手に入れようがなかったわけです。その数年後になると、韓国の方が先にネットが高速化して、mp3が出てきて、簡単に手に入るようになるんですが、その直前の

時代です。

だから、日本のバンドをいろいろ紹介してよと言われて。私の家にそういうCDなんか山ほどありましたから。帰国してからそれを、当時はカセットテープですね、カセットテープは120分が一番長いのですけれども、120分のテープに10何本、ものすごくたくさん入れて。それと英語の解説文ですね。70年代後半の、このバンドが日本のパンクのオリジネーターなんだとか、このバンドに影響を受けてこのようなスタイルが出てきて、それが80年代になるとさらにこう変わって分岐してって、90年代にはこんなのも出てきた、みたいな（笑）。なにせ当時の私はものすごく詳しくだったので、A4で15枚ぐらい、英語の解説文を付けて送って。

そうしたら、みんな本当に喜んでくれました。そのうちの何人かはその後に出世して、韓国人だったら大体名前は知っているようなバンドになったのですけれども、私は音楽とは何の関係もないのに、今でも一応仲間として遇してくれたりするんです。それが1998年です。

2010年代の変化

その後、2007～8年に住んで、そういうバンドの知人たちにもいろいろ世話になったりして。それから2017年にもう一回住んで妻と出会うと。だからこの間、20年ぐらいいあるわけですが、特に思うのが、およそ2010年代に状況がものすごく変わったということです。二回長期滞在した、その間ということです。

何が変わったのかといいますと、2008年ぐらいまでは、何だかんだ言って、日本の

ほうが進んでいるんだと私も思っていました。たぶん韓国の人もそう思っていたでしょう。だから、どちらかという私のほうが教える側というのか、先進国の側というのか、そのような感じで物を言うことが多かったし、そういうコミュニケーションがある程度成立していました。今考えると、それはとても調子に乗っていたなというか、相手に甘えていたなと思いますが。

それから、10年後にまた住んでみるじゃないですか。そうすると残念なことに、韓国のほうはいろいろなところで力を持ってきて、日本のほうはどんどん駄目になっているのを感じるんです。実際、いつしか2010年代ぐらいになると、日本化、ジャパナイゼーションというのは、世界的に英語でも悪い意味になりました。うまくいっていた国が停滞し、経済も駄目になっていくという意味ですね。世界中で、日本化という言葉はそういう意味になったわけです。現在でももちろんそうです。

2017年に結婚して、妻が日本に来てくれて、私が今家で妻によく言われているのは、あなたが日本は先進国だと言うから来たのだけれども、とても先進国に思えないと(笑)。道を歩けば変な人ばかりだし、バーとかお店に行ったら、とうてい先進国の住民とは思えない人ばかりだと。あなたのせいで人生がおかしくなったと(笑)。もちろん冗談としてですが、よくなじられる日々です。まあそれはいいのですが、しかし何パーセントかは、冗談じゃなくて本気の部分もあるんでしょうし、私にもいろいろ思うところがあります。

この間に何が変わったのかというと、ものすごくいろいろありますが時間がなくなって

きたので、大枠の部分だけ話しましょうか。韓国の側で言うと、韓国という国がものすごく競争社会になったということがあります。今思えば、私が初めて韓国に行った98年、その1年前の97年にはIMF外貨危機というのがありました。それをきっかけに韓国は、それまでのやり方を全部捨てて、市場競争に勝ちまくと、輸出で世界に打ち勝つのだという国に完全に転換したのです。

それから10年強たった2010年代になると、その副作用として、ものすごく格差が拡大していく傾向が明確になりました。そして今となっては、韓国社会がとんでもない競争社会であるというのが共通認識です。だから今の若い人たちは、自国をヘル朝鮮と呼びます。いくら競争しても、いくらポイントを稼いでも勝てない、みんながバタバタと倒れていく。そういう雰囲気というか共通認識が、例えば「イカゲーム」というドラマを生んだわけです。

日本という国の現在の姿

その一方で、日本という国は、競争を全然しないことを選んでいきました。その結果とありますが、例えば今、韓国の若い人、学生さんに、韓国はどのような国かと聞いたら、それはそれは怒濤(どとう)のようにしゃべりますよ。韓国は行き過ぎた競争社会になって、金持ちももっと金持ちに、貧乏人ももっと貧乏になる、とんでもない国なのだと。もっと細かいところでも、こういう所が良くないんだとか、どんな若者でも、言いたいことを山のようになくさんもっていて、ものすごく力強く話します。

ところがどうでしょう。日本で若い人に、

日本はどのような国ですかと聞いたら、どうですかね。大多数の人は多分、何とも思っていないし、言いたいことも特にないでしょう。ただ漠然と、日本で生まれて良かったとか、特に悪くないとか、思っているだけで。

もし日本が良いんだったら、何がどう良くて、優れているのか。その良い点は、社会や政治や経済に、どう表れているのか。またもし日本が良くないのだったら、なぜ、いつをきっかけに、どのような理由で良くなかったのか。このようなことを、他人にも、たとえば外国人にでも、分かるようにしゃべれる人は、果たしてどれぐらいいるのでしょうか。残念ながらほとんどいない、と言わざるを得ないのではないかと思います。

やはりこの辺りが、日本という国の現在の姿、世界的にも日本化というのが悪い意味になったというようなことの、一つの重要な表れだと思うのです。大きな経済や政治の問題も、もちろんいろいろあるわけですが、日々、日常生活を暮らしていて、身近に感じられる表れですね。

端的に言えば、人々が物を考えなくなりました。考えなくせに文句ばかり言うという感じですね。大学教員という私の仕事柄、どうしても若い人と接する機会が多いので、韓

国とかと比べて考えた時、これからの日本はどうなるんだろうとかなり心配です。何も考えていないよりはやはり、この国は駄目だ、変えなくてははいけないと怒っている韓国の若者の方が、はるかに健全だと思います。

私も昔は、韓国の人ってやっぱり怒りっぱいなあとか思っていたのです。日本だったらそんな考え方しないのになあ、とかですね。それがいつの間にやら逆転して、日本のほうがおかしくなってしまったのです。それが私の実感で、私は私で日本が好きですからね、これはとても、言葉で言い尽くせないほど、悲しいことです。

だから最後に皆さんにお伝えしたいのは、ここは大学ですから、大学というのはもちろんいろいろなことを考えて学ぶ場所ですね。だから、もし外国の人に、日本はどのような国でどのような問題があるのですかと聞かれたら、きちんと答えられるような、そのような学生さんたちを私たちは送り出したいと思っているのです。だから我々も頑張りますし、皆さんも頑張って勉強しましょうということで、私のお話とさせていただきます。どうもご清聴ありがとうございました。

(社会学部教授)